

令和3年度卒業式 式辞

海技士コース(3級)

厳しい寒さは過ぎ去り、少しずつ春めいた暖かな日が訪れてきました。本日このよき日に、令和3年度海技大学校卒業式を挙行できますことは、本校にとりまして大きな喜びであり、教職員を代表し、一言お祝いの言葉を申し上げます。

海技士コース(3級)の皆様、卒業おめでとうございます。年齢やキャリアが異なる皆様が、上級の免状取得を目指し、学生寮で寝食を共にし、4ヶ月の修学期間を修了し、晴れて卒業の日を迎えられました。皆様の努力に対して敬意を表します。

海技大学校での生活は、ガイドラインに基づき新型コロナウイルス感染症対策を確実に実行していただきました。いまだ感染者が出ていないのは、皆様が日頃より新型コロナウイルス感染症対策を確実に実行していた証であると思料します。

皆様は海技大学校において、現場で培った経験を基礎として、三級海技士に必要な知識、技術を学んできましたが、卒業式を一つの区切りとして、新たな学びがこれから始まると思ってください。入学式で紹介した「習うは一生」という諺があります。新しいことを知り、身に付けていくためには、人は、一生を通じ、常に学ばなければならないという意味です。今後、航海士及び機関士として活躍していく上で新しい知識、技術を身に着けるために、新たな勉強が必要となります。一生を通じて学ぶ

姿勢を第一としてください。

船の世界は、新しい技術の導入により、大きくその姿を変えてきました。最近では、無人運航船、遠隔操縦船、あるいは水素、アンモニア燃料船等の名称を業界誌などで頻繁に目にします。近い将来、新しい技術の導入が更に進み無人運航船、遠隔操縦船が世界の海を航海するとともに、推進プラントで使用する燃料は、重油、LNG を経て水素、アンモニア燃料に代わる日も、現実味を帯びてきました。現に日本財団が主導している MEGURI2040 プロジェクトでは、無人運航船の実証実験が成功しています。しかし、どんなに技術が発達し、船員を取り巻く環境がいくら変化しようとも、船員のスキルが、船舶運航の核であることは疑いようがありません。

本校を卒業し、航海士及び機関士として、気持ちを新たに活躍していくこととなりますが、常に学ぶ姿勢を忘れないで、真摯に仕事に向き合い、与えられた仕事を確実に実施できる船員になっていくことを期待しております。

最後に、卒業生の皆様の希望に満ちた船出を祝し、益々の健康と、前途に幸多からんことを心から祈念して、式辞といたします。

令和4年3月18日

独立行政法人海技教育機構 海技大学校長 前田 潔